

平成24年度（第56回）
岩手県教育研究発表会資料

国語

国語科「読むこと」における
単元を貫く言語活動の充実を図る指導のあり方
～説明文教材を通して～

平成25年2月15日
遠野市教育委員会
遠野市立遠野小学校
武田 亮 一

I 研究主題

国語科「読むこと」における単元を貫く言語活動の充実を図る指導のあり方
～説明文教材を通して～

II 研究主題の設定の理由

1 時代背景から

PISA調査などの各調査において思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識技能を活用する問題に課題があることが明らかになった。そこで、新学習指導要領において、実生活に働く力の育成が重点に掲げられ、言語力の育成を基盤とした確かな学力の育成が示された。その言語力は各教科等で総合的に培うことが必要であることから、各教科において言語活動の充実が重要とされた。

特に国語において言語活動の充実を図ることは、求められている生きて働く言語の力を育成する基盤となる。そこで、この研究推進は社会で求められる言語の力を育成することにつながる。

2 学校目標から

本校の学校目標の一つに「本気で自ら学ぶ子ども」を掲げている。学習したことの基礎基本を活用して、自ら主体的に課題解決をする子どもに育てていくことは、めまぐるしく変化する社会に対応するためにも必要である。その際、学ぶ力を高めるためには、まず言語の力を養うことが大切と考える。

3 児童の実態から

本校の児童は、諸検査の結果や授業の様子をみると、まだ読解力に課題があげられる。特に物語文よりも説明文の方に苦手意識と課題が見られる。説明的文章の方が実社会においてふれる機会が多いことから、説明的文章の読解力を向上させることが必要である。

4 研究経過から

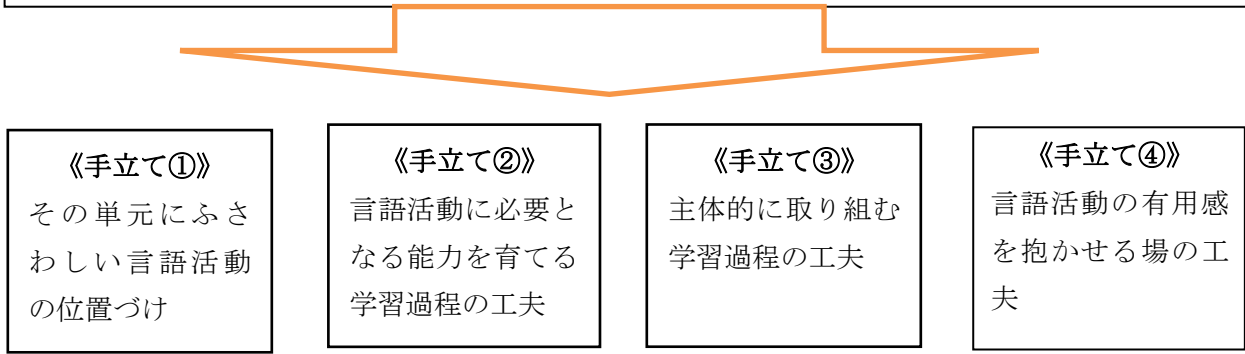
昨年度から領域を「読むこと」、中でも説明文教材にしぼって単元を貫く言語活動の充実を図る指導のあり方をテーマに研究推進を行ってきた。23年度は、これまでのような一つの教材の読解を教師主導で進める授業では、子ども達の実生活に役立つ読解力や今必要とされている思考力・判断力・表現力等を育成することが難しいことに気づき、教師の授業改善の必要性を強く感じたスタートだった。そして、単元を通して子ども達に力をつけるための単元構想作りの手立ては少しずつ明らかになってきた。今年度は、身につけさせたい力を定着させるために単元を貫く言語活動の学びを授業の中でどのように仕組んでいけばいいのかを明らかにするために、第二次のあり方を重点に、言語活動の充実を図るための授業改善をさらに研究推進することとした。

Ⅲ 研究目標

国語科の「読むこと」の説明文指導において、単元を貫く言語活動を充実させるための指導のあり方を明らかにする。

Ⅳ 研究仮説

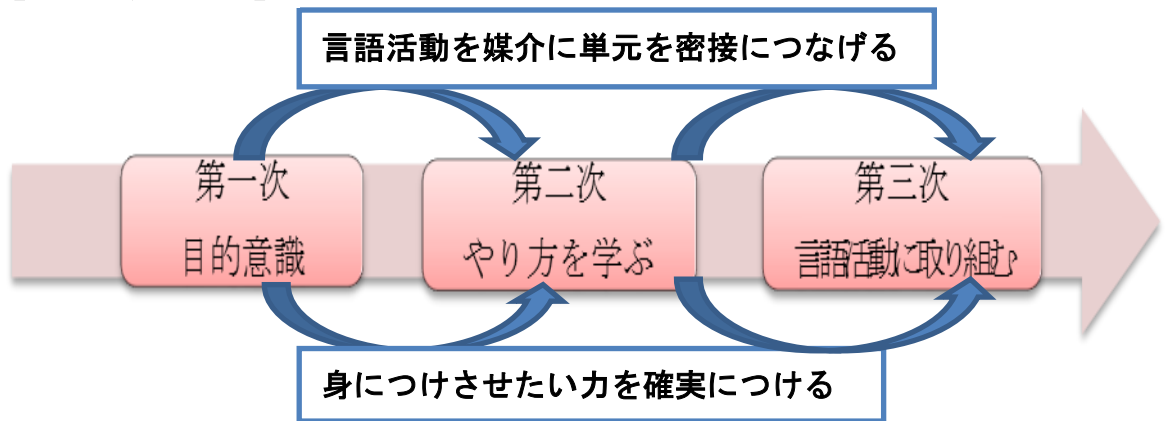
国語科「読むこと」の説明的文章の指導において、次のような手立てをとれば、単元を貫く言語活動の充実を図る指導方法が明らかになるであろう。



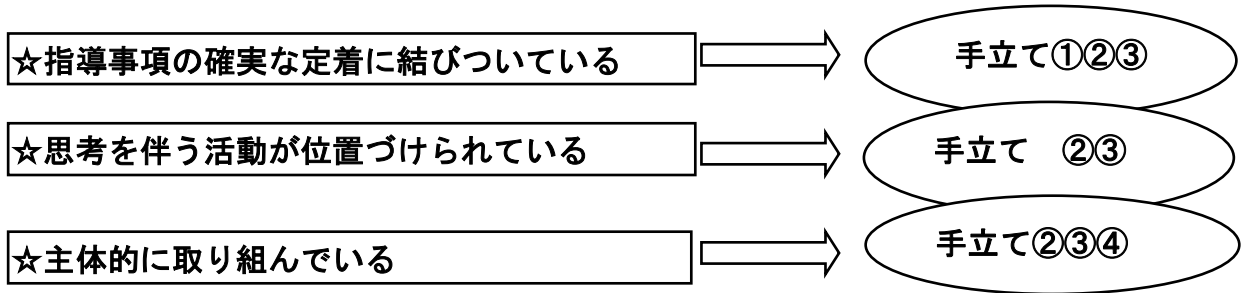
Ⅴ 研究の基本的な考え方

1 単元を貫く言語活動とは

【課題解決的学習】



2 言語活動の充実とは



VI 研究の実際

1 仮説 手立て① その単元にふさわしい言語活動の位置づけ 《單元構想作りのステップ》

(1) 單元構想の3つのステップ

例 単元名「やくめとくふうがよくわかる のりものカードをつくらう」 教材「いろいろな ふね」(東京書籍 1年下)

ステップ 1 その単元でつけたい力を明確にする

◎身につけさせたい力を明確にした説明文年間指導計画(マトリックス表)から指導事項を確認する。【平成23年度作成】
(補助資料P1~P3)

この単元では、読むことのイ→事柄の順序に気をつけながら読むこと
読むことのエ→文章中の大事な言葉や文章を書き抜くこと

ステップ 2 つけたい力にふさわしい言語活動を構想する

- (1) 子どもの実態の把握からスタート
- (2) 言語活動の特徴から選んでみる
- (3) **第三次の言語活動を実際に作成してみる**
- (4) **教材文で二次の言語活動を検討する**
- (5) **第一次のモデル言語活動を作成する**
- (6) つけたい力に結びつくか、再検討を加える

- ・実際に第三次の言語活動を試行錯誤して作成することで、どこで子ども達がつまずくのか、何が足りないのかを見つけることができる。
- ・その言語活動に取り組むために、第二次でどんな学びが必要なのか、つけたい力にぴったりか検討する。
- ・モデルとなる第一次の言語活動(のりものカード)を作成する。

ゴールからの教材研究

ステップ 3 指導案に構想を明記する

補助資料 P13~P17
第3学年学習指導案(H24)



(2) 3、5年生の単元構想例

〈単元名〉大事な言葉や文を分かりやすくまとめた

「はたらく犬リーフレット」を作ろう

〈教材名〉「もうどう犬の訓練」東京書籍 3年下

〈身につけさせたい力〉

- 大事な言葉や文を見つけ、書かれている内容を短くまとめながら読み取る力
(読むことエ)

〈言語活動〉

働く犬についての本を読み、仕事や役割を紹介するために「はたらく犬リーフレット」にまとめること。

〈単元の指導計画 全9時間〉

過程	おもな学習活動
第一次	① 働く犬について知っているか話し合う。 教師自作の「はたらく犬リーフレット」を見て、気づいたことを話し合う。学習計画を立てる。
第二次	② 文章構成をおさえて、要約のポイントを大まかにつかむ。 ③ 盲導犬とはどんな犬なのかを読みリーフレットにまとめる。 ④ 人間の言うことにしたがう訓練はなぜ難しいのかを読み、「はたらく犬リーフレット」にまとめる。 ⑤ 盲導犬になるために、できなくてはならないことを読み、「はたらく犬リーフレット」にまとめる。 ⑥ 「盲導犬がしてはいけないこととは、どんなことか」を読み、「はたらく犬リーフレット」にまとめる。
第三次	⑦ 問いの文を作り、働く犬について問いに対する大事な言葉をおさえる。 ⑧ 自分が調べた「はたらく犬リーフレット」を完成させ、お互いに確かめ合う ⑨ 6年生への紹介の仕方を練習する。

〈単元名〉文章の要旨を読み取って、

推薦するための本の帯を作ろう

〈教材名〉「森林のおくりもの」東京書籍 5年下

〈身につけさせたい力〉

- 目的に応じて、文章の事柄を的確におさえて読み、要旨をとらえる力 (読むことウ)
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む力 (読むことカ)

〈言語活動〉

森林についての本を読み、本の帯に推薦の文章をまとめること。

〈単元の指導計画 全9時間〉

過程	おもな学習活動
第一次	① 教師自作の本の帯を提示し、「森林」について興味を持つ。また、「森林」についての本を読み、その本をみんなに読んでもらうための帯作りをするという学習の見通しを持って、学習計画を立てる。 ② 帯について知る。
第二次	③④全体を4つのまとまり(意味段落)に分ける。 ⑤ 「森林のおくりもの」の帯の表面を作る。(文章全体から筆者の要旨にかかわる帯を作る。) ⑥ 「森林のおくりもの」の帯の裏面を作る。(文章全体から自分が推薦したい事柄にかかわる帯を作る。)
第三次	⑦⑧並行読書した読んだ本の文章構成や筆者の要旨をとらえ、推薦したい本を選び、帯を作る。 ⑨ 完成した本の帯を読み合い交流する。

2 仮説 手立て② 言語活動に必要となる能力を育てる学習過程の工夫 《第二次の主な展開のしかたの構想と実践》

(1) 基本的な考え方

単元を貫く言語活動を位置づけた「読むこと」の学習過程を本校では「ことばチャレンジ学習」として児童に下ろしている。学習過程で言語活動に必要となる能力を育てるために、第二次での展開が重要だと考えている。そこで、次の4つのような展開の工夫を試みた。この4つの展開は、必要に応じて複合的に組み合わせることもある。

第二次の主な展開のしかた

(1) 第三次の言語活動の様式のまま第二次で螺旋的に反復学習する。

☆ステップを踏む。

(2) 言語活動のパーツを第二次で各パーツごとに取り上げ学ばせる。

☆パーツにつけたい力を直結させる。

(3) 言語活動の構成要素を中心に取上げながらワークシートを使って学習する。

☆手引きとなるワークシートの工夫。

(4) 第二次の単位時間の終末等に、第三次の言語活動を関連づけながら学習する。

☆並行読書をいかす。



(3) 第二次で言語活動のパーツごとに取り上げて展開する実践例

単元名「文章の要旨を読み取って、推薦するための本の帯を作ろう」

教材 「森林のおくりもの」(東京書籍 5年下) *平成24年度実践

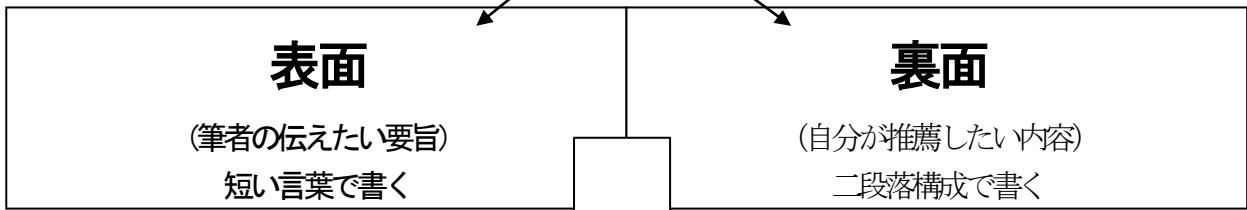
指導計画(9時間)

過程	主な学習活動
一次(2時間)	・「森林」についての本を読み、その本の帯を作ろうという学習課題を設定し、計画を立てる。
二次(4時間)	・教材文の文章構成をおさえる。 ・教材文の本の帯の表面(筆者の伝えたい要旨)を作る。 ・教材文の本の帯の裏面(自分が推薦したい事柄)を作る。
三次(3時間)	・並行読書した本から、その本の筆者の要旨を表面に、自分が推薦したい事柄を裏面にまとめた本の帯を作る。

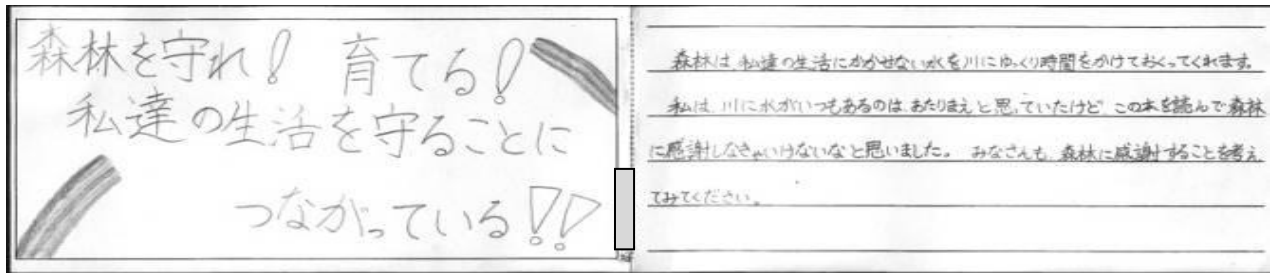
1時間の中で、帯の表面と裏面の両方を扱い、螺旋的に学習するよりも、表面、裏面のそれぞれのパーツごとに学ばせた方が目的に応じて内容をとらえるということを意識づけられると考えた。

実際にパーツごとに学習したことで、表面はどんな内容か知りたくなるように筆者の要旨を使って短くまとめること、裏面では、自分の考えをおりまぜながら、推薦したい内容をまとめることという目的の違いをはっきりおさえることができた。

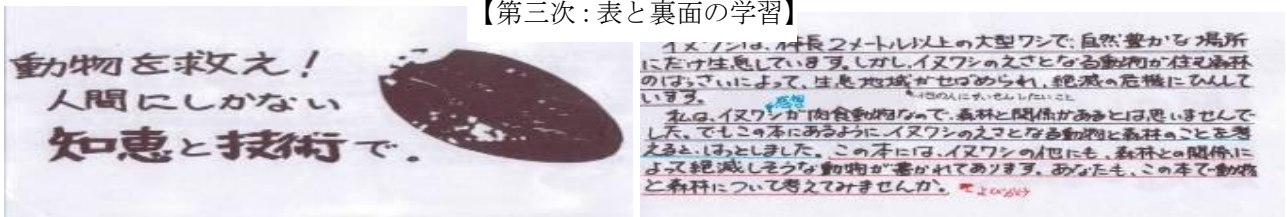
◎本の帯はつきたい力である「目的に応じて、文章の事柄をおさえて読み、要旨をとらえる力」を見とれるようにした。



【第二次：表面の学習】 ← それぞれのパーツごとに学習 → 【第二次：裏面の学習】



【第三次：表と裏面の学習】



【パーツごとに丁寧に学習したことで、帯のまとめ方が分かった子ども達は、第三次では、表面と裏面の両方の下書きに1時間で取りかかることができた。】

(4) 言語活動の構成要素を中心に上げながらワークシートを使って学習する実践例

単元名「問いと答えの文を作って、どうぶつクイズに挑戦しよう」

教材「ビーバーの大工事」（東京書籍 2年下）

*平成23年度実践

指導計画（13時間）

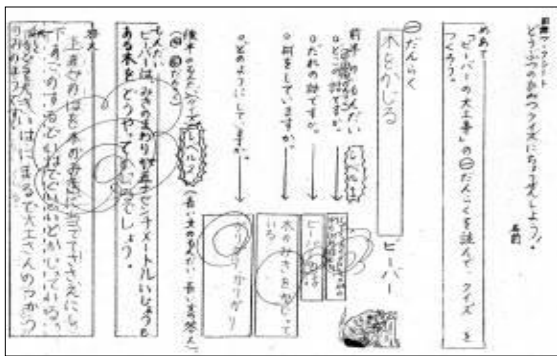
過程	主な学習活動
一次（2時間）	・「どうぶつクイズ」を作り、みんなで交流するという学習課題を設定し、計画を立てる。
二次（6時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の文章構成をおさえる。 ・教材文からどんなクイズができそうか考える。 ・教材文からクイズ1（レベル1、2）を作る。【図1】 ・教材文からクイズ2（レベル3）を作る。【図2】 ・教材文からクイズ3、4を作る。【図3】
三次（5時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がクイズに出したい動物を本から選びクイズを作る。【図4】 ・完成したクイズで交流する。

クイズの問題は身につけさせたい力に結びつくように事柄の順序に関する事とした。ただ、すぐ、その問題づくりに取りかかるのは難しいと思い、

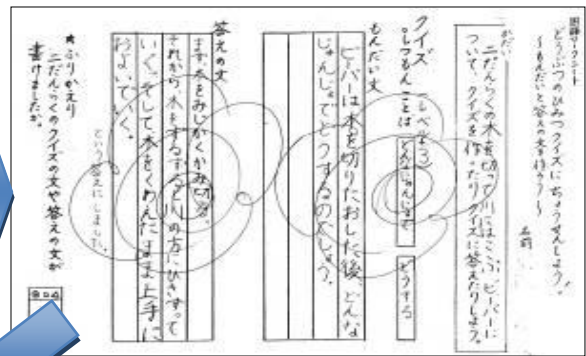
レベル1（単語で答える問題）
レベル2（文で答える問題）
レベル3（文を順序に気を付けて答える問題）

と、そのレベルごとにワークシートを使って学習できるようにした。このように学習内容に応じたワークシートを使うことで、第三次では読んだ内容からどんなことが問題になるのか捉えることができるようになっていった。

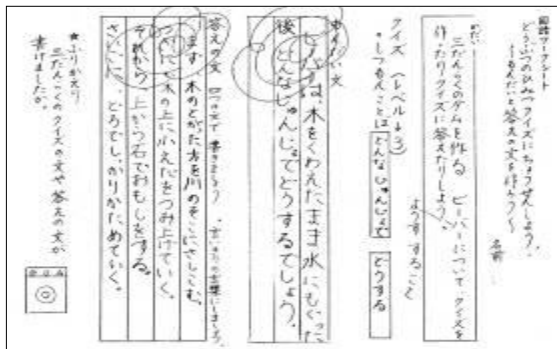
【図1】 レベル1、2のワークシート



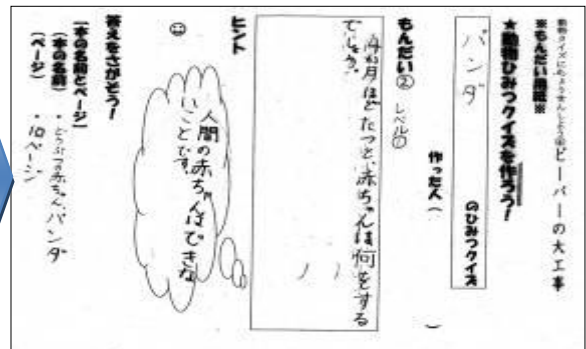
【図2】 レベル3のワークシート



【図3】 レベル3のワークシート



【図4】 自分のクイズのワークシート



(5) 第二次の単位時間の終末などに、第三次の言語活動を関連付ける実践例

① 第三次の言語活動の内容を構想させる

(例) 単元名「説明紙しぼいをつくろう」教材「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍 4年上) *平成24年度実践

〈第二次 3時間目の主な展開〉

	活動内容
導入	・前時を想起し、学習課題を確認する。
展開	・ヤドカリカリがイソギンチャクを移している方法について説明紙しぼいを書く。 ・説明紙しぼいを使って、段落の並び方を考える。 ・ 三つに向けて、今日作った説明紙しぼいを使ってペアで問いと答えの文を考える。
まとめ	・学習のまとめをする。 ・次時の学習の確認をする。

第二次で段落相互の関係を問いと答えから学んだ。そこで、第三次で問いの段落を加えて、紙芝居を作らせるために、自分たちが選んだ本ではどうなるか構想させる活動を行うことで、第二次から第三次までをとぎれず思考できた。

② 並行読書等の図鑑から文章を提示し、第二次の学習をその場で活用させる

(例) 単元名「やくめとくふうがよくわかるのりものカードをつくろう」教材「いろいろなふね」(東京書籍 1年下)

〈第二次 6時間目の主な展開〉

*平成24年度実践

	活動内容
導入	・前時を想起し、学習課題を確認する。
展開	・「しょうぼうてい」の「やくめ」と「くふう」について読む。 ・まとめの段落を読んで、「やくめ」と「くふう」について理解を深める。 ・ 今日の学習をいかして、並行読書の中から選んだ補助教材で、「やくめ」や「くふう」をさがす。
まとめ	・学習のまとめをする。 ・次時の学習の確認をする。

第二次のほぼ毎時間、並行読書の中から教師が準備した文章を提示し、「やくめ」と「くふう」を読み、答えさせる活動を仕組んだことで、第三次の学習をイメージでき、情報の取り出しが短時間で、できるようになった。

③ 並行読書の内容を交流させ、第二次の学びと結びつけさせる

(例) 単元名「じゅんじよに気を付けてどうぶつごいぞカードを作ろう」教材「ビーバーの大工事」(東京書籍2年下)

〈第二次 8時間目の主な展開〉

*平成24年度実践

	活動内容
導入	・前時を想起し、学習課題を確認する。
展開	・教材文ビーバーの大工事を読んで、「工事の内容」と「体の特徴」それぞれについて交流する。 ・全体で内容を確認する。 ・交流したことをカードにまとめる。 ・ 今日の学習をいかして、並行読書の中から選んだ教材で、「動物の体の特徴」を紹介する。
まとめ	・今日のまとめをする。 ・次時の学習の確認をする。

第二次の展開の終末には、並行読書の内容を交流させるようにした。自分が読んでいた読書内容を紹介することで特徴とできること、という事柄のつながりを子ども自身が意識していった。その後の並行読書でも目的に合わせて読むようになった。

3 仮説 手立て③ 主体的に取り組む学習過程の工夫 《工夫の観点を意識した実践》

(1) 基本的な考え方

工夫の観点

・目的意識を大切に

- ・ つけたい力を意識した単元名
- ・ ゴールを見通せる学習計画づくり

・学習形態の工夫

- ・ ねらいに応じたペア学習やグループ学習の位置づけ

・並行読書の充実

- ・ 常に並行読書を意識づける
- ・ つけたい力とその言語活動に結びつく読書環境づくり

(2) 目的意識を大切にした第一次の実践例

① 単元名で目的を意識づける

(例) 単元名「複数の本や文章などを読み比べ、自分の考えを提案するリーフレットを作ろう」
(つけたい力にかかわる言葉) (主な言語活動について)

このように、つけたい力と単元の中でどんな言語活動をしていくのか意識できるように、第一次で子どもと共に単元名を設定していく。

② 単元の導入時の工夫

身近な話題から、子どもの興味・関心を高め、学習の目的を構築しながらつけたい力を意識していくよう導入を工夫をする。

【1年 児童が興味を引く、音を使った導入の工夫】



「いろいろなふね」の導入場面。様々な乗り物の音を聞いてクイズを出して、これからの学習に興味・関心を持たせる工夫を行った。どの子も耳を傾けて真剣に聞く姿が見られた。

【6年 身近な話題、地域の資料、実物のリーフレットを使った導入の工夫】



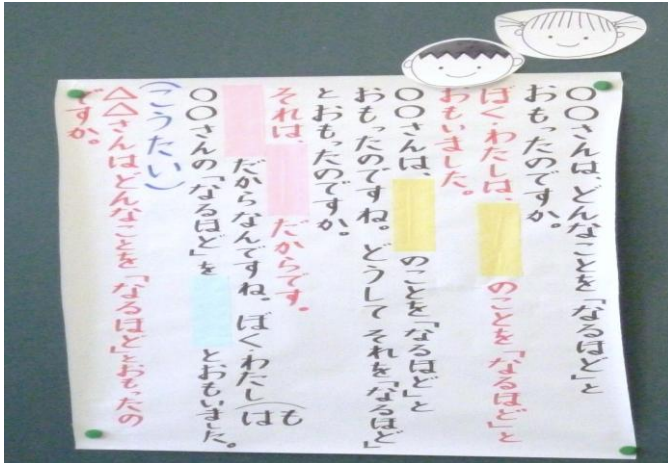
「未来に生かす自然のエネルギー」の導入場面。新聞や地域のエネルギーについての文章を提示し、エネルギーへの関心をもたせ、文章を読むことで様々な考えが浮かぶことに気づかせた。

(3) 学習形態の工夫

第二次においては、言語活動のポイントとなる視点で交流させることで必要となる力や身につけさせたい力を意識づけている。

また、ペアやグループを取り入れることにより、受け身ではなく、自分たちの学びがどうであったか、主体的に学ぶ姿勢作りができてきた。

① ペア学習（話型と実際の様子・2年生の実践から）



② グループ学習の様子（話型と実際の様子・5年生の実践から）

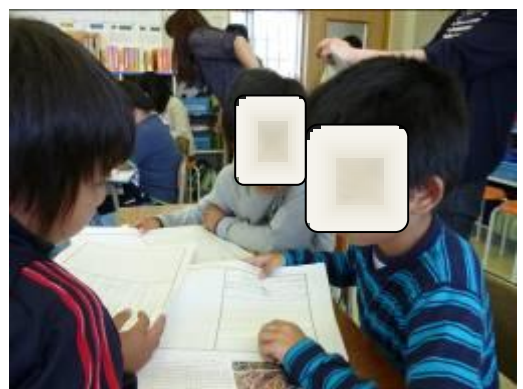
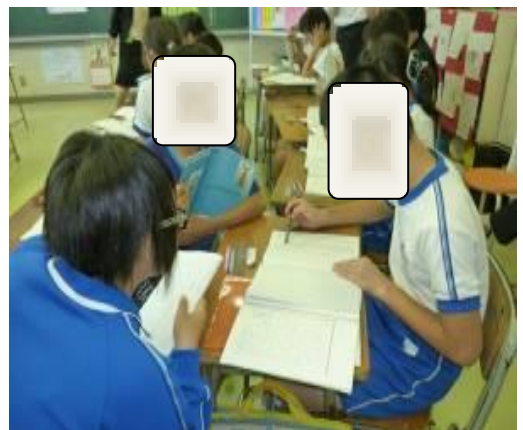
☆ 開始前の視点
 ① 2段階目では本文から約何が引用されているか
 ② 2段階目では本文から約何が引用されているか

○話型
【下書き後の話し合い】
 司：これから帯の裏面をどのように書いたか発表してもらいます。
 話し合いの時間は、1人2分間です。では〇〇さんお願いします。
 「私は〇〇段落の裏面をすいせんしようと思ひ、次のようにまとめた。読みます。」
 (読んだ後)「どうですか。」
 司：それでは、「聞く側の視点」にもとづいて、〇〇さんの裏面がどうだったか意見を述べてください。
 例：「〇〇さんの裏面は、きちんと2段落構成になっていたのがよかったです。」
 「1段落目では、〇〇のところを短く要約して文章にしていたのがよかったです。」
 「1段落目では、文章中の『—』という文(言葉)を引用していたのがよかったです。」
 「2段落目には、すいせんしたいことに対する考えがきちんと書かれていたのがよかったです。」
 「2段落目に、この文章を他の人によびかける言葉(文)が入っていたのがよかったです。」
 「〇〇のところを—にする、もつとよい帯になると思ひます。」
 「〇〇のところを—と言ひええると、もつとよい帯になると思ひます。」
 「〇〇のところを—という言葉を付け加えとつとよい帯になると思ひます。」
 司：それでは、今の意見を参考にして、仕上げの帯に生かしてください。
 次に〇〇さんお願いします。」

【仕上げ後の話し合い】
 司：それでは、どのような裏面に仕上げたか発表してもらいます。
 〇〇さん、お願いします。
 「私は、下書きと同じように書きました。(下書きと同じ場合は、これで終了)。
 「私は、話し合いを参考にして、裏面を次のようにまとめた。読みます。」
 (読んだ後)
 「下書きと変わったところは、—のところですか。」
 司：下書きと変わったところを中心に、意見を述べてください。
 (よくなったところ、工夫が感じられるところを見つけてあげましょう。)
 司：下書きよりもよくなって(工夫されている)よかったです。次に、〇〇さんお願いします。」

☆裏面を書くときの参考にしましょう。

- すいせんしたい内容を要約した場合(単元の最初の時間に示した帯の裏面)
 イヌワシは、体長2メートル以上の大型ワシで、自然豊かな場所だけに生息しています。しかし、イヌワシのえさとなる動物が住む森林のばっさいによって、イヌワシの生息地域がせばめられ、絶滅の危機にひんしています。
 私は、イヌワシが肉食動物なので、森林と関係があるとは思ひませんでした。でもこの本にあるように、イヌワシのえさとなる動物と森林のことを考えると、はつとしました。この本には、イヌワシの他にも、森林との関係によって絶滅しそうな動物が書かれてあります。あなたも、この本で動物と森林について考えてみませんか。
- すいせんしたいところを引用した場合(引用するときは「—」を使う。)
 本文には、「人間にとつても動物にとつても住みよい地球にしていることが、日本そして地球の明るい未来につながっている。」と書かれています。
 私たちがこれから明るい未来を生きるには、自分自身の生活のことだけではなく、共に生きていく動物のことも考えていくことが大切なのだと思ひました。この本は、動物と森林の関係について今まで気づかなかったことがたくさん書かれています。あなたも、この本で、動物と森林についての新たな発見をしてみませんか。



ペアやグループ学習では、話形を示すこと、何のためにペア学習をするのかを明確にすることで、生産性のある活動になるように全校で取り組んでいる。

(4) 並行読書の充実

第三次の言語活動に必要な本などを、教室や廊下などにコーナーを設けて、いつでも読める環境作りを行っている。また、授業の中でブックリストや読書カードなどを活用することで並行読書の内容も充実してきている。

① 教室や廊下などの並行読書のためのコーナー 【2年生の教室や廊下】



教室や廊下などに、子ども達が単元で必要となる本を用意して置くだけでなく、低学年の場合は手に取って読みやすいようにコーナーなども設置することで、子どもの知りたい、読みたい気持ちに応えることができ、より主体的な読書の意欲づけになった。

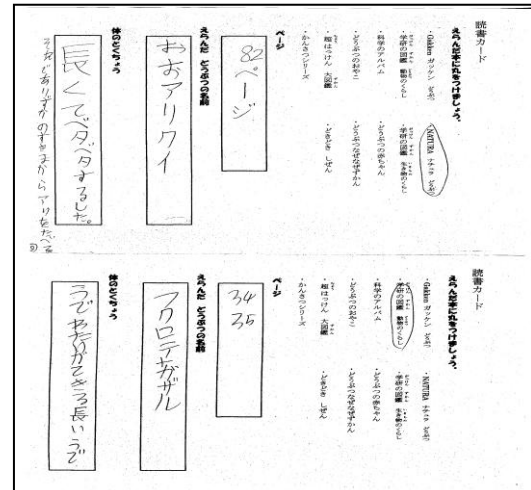
② ブックリストと読書カード

【2年生の読書カード】

本は友だち(3年) 【3年生のブックリスト】
 こんな本もいっしょ!

◆もうどう次の訓練

番号	本のなまえ	作者・訳者・編者	読んだら○
1	しらべよう! はたらく犬たち③ 牧羊犬・ソリ犬	中島眞理、小岩井農場まきば園、 全日本狩猟倶楽部/監修	
2	しらべよう! はたらく犬たち④ 訪問活動犬・タレント犬	中島眞理、日本救助犬協会、日本 ペットモデル協会/監修	○
3	はたらく犬 第1巻 盲導犬・聴導犬	特定非営利活動法人日本補助 犬協会/監修	
4	はたらく犬 第2巻 介助犬・セグウェイ犬	特定非営利活動法人日本補助 犬協会/監修	
5	はたらく犬 第3巻 警吠犬・検疫物そうま犬・導盲犬・災害救助犬・地雷犬 出動する犬たち	特定非営利活動法人日本補助 犬協会/監修	
6	はたらく犬 第4巻 牧羊犬・ソリ犬・和內探知犬など さまざまな仕事をする犬たち	特定非営利活動法人日本補助 犬協会/監修	○
7	社会でかつやくする犬たち 介助犬	介助犬協会/監修 こどもくらぶ/編著	○
8	社会でかつやくする犬たち 盲導犬	アイメイト協会/監修 こどもくらぶ/編著	○
9	社会でかつやくする犬たち 聴導犬	こどもくらぶ/監修 こどもくらぶ/編著	○
10	社会でかつやくする犬たち 訪問活動犬	こどもくらぶ/編著	



ブックリストや読書カードを使うことによって、自分が読みたい本や調べたい本を選書しやすくなり、特に選書が難しい低、中学年で効果的だった。また、教師が子どもの読書状況を見とり支援することができる。

4 仮説 手立て④ 言語活動の有用感を抱かせる場の工夫 ≪「ファイル化」と「ふり返し」≫

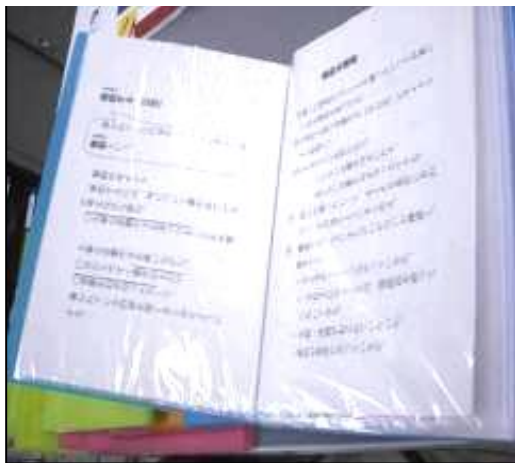
(1) 言語活動の有用感を抱かせる場の工夫 ⇔ ファイル化

教科書の「ことばの力」や語彙を増やすための「ことばのたくわえ表」など学習に役立つ学びの視点をファイル化している。単元で使用したプリントやワークシート、言語活動を通してできたものをファイルし、いつも手元におかせることで学習の手引きとなっている。

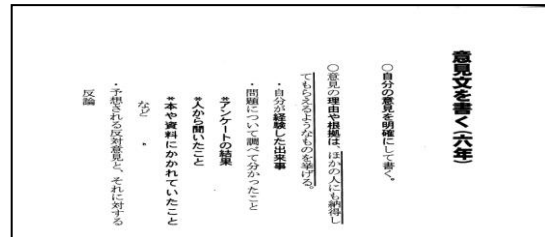
ファイル化することで、学習のあしあとが残り、教師も子どもも、既習事項をすぐに引き出せるようになった。

【ファイル化】

【単元で使用したプリントやワークシート】



【ことばの力】



【ことばのたくわえ表】

自分に ことばを たくわえよう

作品を読んで知った新しい単語、普段あまり使わない文末表現などをリストアップしてみよう。自分のことばの引き出しが増え、話すときや書くときにきっと役立つよ！(使った言葉には、マーカーペンで色をぬろう。)

NO	様子を表すことばなど	文末表現	その他(ことわざ・四字熟語など)	意味を調べたことば
1	けだましい	～である	一期一会	
2	しほりに	～に共感できる	完全無欠	
3	こちが	～です。	完全燃焼	
4	そむえたう	～します。	馬耳に念仏	
5	ひそか	～できます。	能あるたがはみせ	
6	しほまる	～なのです。	とんがりやがくちや	

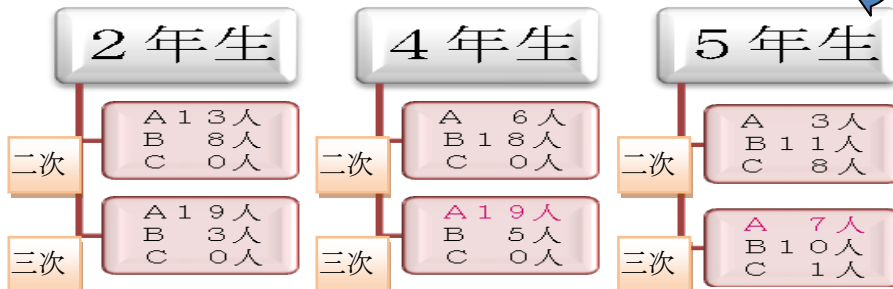
(2) 言語活動の有用感を抱かせる場の工夫 ⇔ 第二次の最後と第三次の終末のふり返し

単元を貫く言語活動を進める中で身につけた力を第二次と第三次の終わりにふり返らせる。そこで、必ず問う点は次の2点である。

- ◎ その言語活動の作成方法が分かったか。(または、重点としてつけた力)
- ◎ 言語活動を通して、自分についての力や前よりできるようになったことは何か。

第二次の終末と第三次に「それぞれのつけた力」についてふり返しをさせた。「～することが分りましたか。」等という問いに対して
 [A わかった B 大体分かった C あまり分からない D 分からない]で選択させた。

◎ ふり返りのデータの結果



第二次では、BやCと答える子が多かったが、第三次の終わりにになるとAとBの割合が増えた。ふり返しをさせることで、第二次より第三次での高まりを実感した子ども達は、自分についての力を自覚するようになった。

(3) 意識アンケートから見る有用感の変容と傾向

① 学習の有用感

全校児童に
物語文や説明文の学習が役立つと思ったことがありますか。
 の問いに対して、
 [ア ある イ 少しある C あまりない D ない]
 で選択させた。

【有用感の変容】
 研究を始めた H23 年度では、アとイをご合計すると 77% だった。2 年目の H24 年度では、86% と変容が見られた。
 単元を貫く言語活動の充実を図る指導を通して、子ども達が国語でつけた力を実感し、国語科や他教科で役立てようとしていることが 5 の問いの結果からも、はっきりと分かった。
 → (補助資料 P 4 ~ P 7)

* H23、H24 年度実践からの抜粋

年度	ア	イ	ウ	エ
23 年度	26%	51%	20%	3%
24 年度	41%	45%	13%	1%

② 具体的に役立つと感じる場面

5 **どんなことに役立つと思いましたか。(複数回答可)** (※ 補助資料 P7 から一部抜粋)

(1~4 年 H24. 10 月) 5 年以上 上段 H23. 9 月、下段: H24. 10 月

[%]

	ア 音読	イ 発表	ウ 調べ	エ 選書	オ 読書	カ 感想文	キ 他教科話 す	ク 他教科ま とめる	ケ 他教科書 く	コ 係・委員 会	サ 言語活 動	シ そ の 他
1-1	32.0	12.0	4.0	12.0	12.0	16.0	4.0	8.0	12.0	16.0	4.0	0
1-2	91.3	56.5	13.0	26.1	34.8	13.0	0	4.3	0	8.6	0	4.3
2-1	34.8	30.4	34.8	39.1	21.7	43.8	39.1	17.3	17.3	26.1	26.1	21.7
2-2	56.5	30.4	26.1	86.9	13.0	30.4	21.7	17.3	21.7	17.3	52.2	0
3-1	44.4	22.2	11.1	29.6	18.5	25.9	11.1	3.7	0	3.7	18.5	3.7
3-2	55.6	11.1	3.7	22.2	14.8	29.6	4.7	4.7	0	0	59.3	7.4

【低学年の傾向】
 言語活動の学習が普段の音読に役立っていると感じている。

【中学年の傾向】
 言語活動の学習が普段の音読や選書の力に役立っていると感じている。

【高学年の傾向】
 言語活動の学習が発表したり、調べたりする力に役立っていると感じている。

Ⅶ 研究の成果と課題

《研究の成果》

- ◎実態をふまえて単元にふさわしい言語活動を構想するステップが明らかになった。
- ◎第二次の言語活動のあり方に重点的に取り組み学習過程を工夫したことで、第三次において第二次と一貫性のある指導のあり方が明らかになってきた。
- ◎有用感を抱かせる場の工夫により、子どもに自分についての力の高まりを自覚させ、達成感を抱かせることができた。
- ◎教師が単元を貫く言語活動を構想し、試行錯誤しながら指導実践したことにより、指導方法の改善につながり、言語活動の充実につながっている。
- ◎ゴールを見据えて焦点化した指導ができるようになったことにより、子どもの主体的な学びが保障されてきた。また、子ども自身が言語環境を見つめなおすきっかけとなっている。

《研究の課題》

- ・言語活動の特徴をふまえ、つけたい力と言語活動のさらなるマッチングを図り、指導方法を改善していくこと。
- ・第二次と第三次の学び（言語活動）、より密接につないだ単元構想とすること。
- ・言語活動に必要な能力を育てるために発達段階をおさえた系統的な指導を図ること。
- ・学習環境（教室環境、図書室、第三次に結びつく読書環境）をさらに整え、子ども達が学んだことを活かしていく場面を他領域、他教科においてもつくること。

＜主な参考文献＞

- ・水戸部修治・鯨井幹夫（2011）『小学校新学習指導要領の授業 国語科実践事例集』 小学館
- ・水戸部修治『小学校国語科 言語活動パーフェクトガイド』 明治図書
- ・文部科学省教育課程課・幼児教育課『月刊 初等教育資料』 東洋館出版
- ・盛岡市立城南小学校 研究紀要
- ・北上市立黒沢尻西小学校 研究紀要